

2022年5月24日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
第1回ALPSセミナー

参加者アンケート（オンライン：Zoom）

当日参加者数： 246名 アンケート提出数： 119件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・ アカデミックソリューションズの存在が新しい発見
- ・ web 授業の支援業務を行っているが、自分の体感と同じ結果が出ていた。問題点や学びはあったが、計測の仕方がいまいちわかっていなかったのも勉強になった。
- ・ 早稲田大学図書館でも種々のデータを収集して、学習支援を考えていること。
- ・ 早稲田大学、千葉大学両大学の利用実態
- ・ とても身近なテーマで参考になりました。
- ・ 図書館内での利用実態の調査及び論文があること
- ・ 新しいことというよりは今まで行ってきたことについて改めて考えることが出来ました
- ・ 調査により利用者の現状を知った責任があるということです。
- ・ 図書館利用に関するデータの読み解き方や活用について、学びが大きかった。本学でも参考にしたい。
- ・ 徐々にコロナ禍以前の体制に戻りつつあるが、授業の形態・学生の学習行動の変化に合わせて、図書館のサービス内容も変化していかなければならないことを改めて認識した。
- ・ 数値データだけではなく実際の調査をするのは大変だが有意義で効果的だと思いました
- ・ オンライン授業が学生にとってどんなものであるか、他大学の事例ではあるものの、本学の学生の様子とも合致していたことからさらに確認することができた。また、調査の結果をどう活かすかということについて、具体的なコメントがあったのがありがたかった。
- ・ 利用実態やオンライン学習における学生の声など、調査してはじめて分かることも多いと感じました。調査結果を発信・共有することの重要性も感じました。
- ・ ご講演いただいた大学図書館が、コロナ禍における学生の実態把握に真摯に取り組んでおられること自体が発見でした。
- ・ 利用実態の把握が大切だということがわかりました。今後の統計業務に活かしていきたいです。
- ・ コロナで学びが変わったこと、やはりサービスは利用者主体であるべきこと
- ・ 館内巡回でデータを取る手法は、目から鱗が落ちました。
- ・ 母数が少ない中でのエビデンス活用についてとても参考になりました。
- ・ 調査することの意義
- ・ 館内利用の実態とその簡易な調査方法を知ることができました。
- ・ 早稲田大学の稲葉さんの発表から、図書館の滞在時間や利用の仕方には学部種により違いがあること、千葉大学の谷さんの発表から、対面・オンラインと授業の形態に対する学生の意識が異なり、統一的な対応がしづらいこと、など業務を行う上での課題が浮き彫りになりました。
- ・ 調査の実施方法など、参考になった。

- ・ 利用者実態の把握とエビデンスベースの改善、他部署・職員との連携の重要性について
- ・ エビデンス・ベースの姿勢と利用者ニーズの把握の重要性をよく認識しました。
- ・ 千葉大学の学生さんでも自宅でオンライン授業の受講環境を整えるのに苦労していることがわかりました。教育学習支援をするのに職員のスキルアップ・能力開発は重要であることもよくわかりました。
- ・ 利用動向やニーズを把握するために定量的な評価に加え、定性的な評価が必要となる点について、大変参考になりました。ラーニング・コモンズの利用調査にも応用してみたいと考えています。
- ・ 統計をとる必要性
- ・ 小職 IR を担当しているのですが簡潔な感想として、・図書館で学生追跡をしている人もいるんだ。一般職員の方が高レベルの論文をこのコロナの時期に作成されている意識の高さ。・集めたデータをちゃんと学生へフィードバックする・昨年と同じ仕事をやるというのはよくない、という司書がいるのに驚いた。・司書から人事課に異動ってすごいな（稲葉さん）
- ・ 学生がオンライン授業にどのように対応しているのかが、他大学の状況とは言えある程度具体的にわかり、興味深かった。
- ・ 館内利用調査（観察調査）について、大変興味深く拝聴させていただきました。時間の制約はありますが、少しずつでも取り入れたいと思います。
- ・ 学生の実態、状況などをうかがい知れた事。また、調査して実態を把握する事の大切さ、それをどんな形であれ発信、共有すること
- ・ 巡回時に利用者がどのように利用しているかを調査することの重要性がわかりました。統計等では、入館者・貸出数が注目されがちなので、実際にどうかということが大事だと感じました。
- ・ 図書館内の館内巡視をする際には、もっと利用者の動きや利用状況を細かく観察することが重要であることを再認識させていただきました。
- ・ 図書館の利用について定量的に評価を行っていることが大変参考になった
- ・ ちょうどコロナ禍前後の利用統計の分析をしているところでしたので、早稲田大学図書館様における利用調査の手法、分析結果のご報告は大変参考になりました。オンライン学習環境において、学生が感じていたことを可視化いただき、実態を知ることができました。
- ・ 業務委託により直接利用者と接する機会がなくなってしまったからこそ、現場感覚を失わない努力をすべきということ
- ・ コロナ前後の図書館の使い方の変容や、学生の意識の変化などを、学生の生の声を含めて知ることができました。自分の思っていたとおりの部分もあれば、そうでない部分もあり、大変参考になりました。
- ・ 図書館調査の方法や、調査目的や結果を何にどうつかっていくのかが、わかった。
- ・ 谷氏の調査結果から、オンライン授業を受ける学生の環境も多様な状況にあることがわかり、それに寄り添った対応をしていくことが重要と感じました。また、同じく谷氏の発表から、「調査後は結果をすぐに使わないと古くなる」とのお言葉、その通りだと思いました。
- ・ 学習支援について、エビデンス・ベースにより考察した点について、非常に興味深かったです。
- ・ 谷さんの発表では、学生の声について例を挙げてくださり、わかりやすかったです。利用したい紙の資料が手に入らず、類似の資料で代用したという話は、とても心苦しかったです。
- ・ 直接調査で得る情報・学生の日記による学修時間等は調査として初めて得ることがありました。
- ・ 感じていることを数値化することの強さと責任、という話が印象に残りました。コツコツと積み上げて調査をしていくこと、さらにそれを分析することで、なんらかの結果が出せるが、その結果の共有を気軽に話題にするぐらいでもよいので、進めていくことが。

- ・ コロナ禍での学生の行動について、詳細な調査をもとにエビデンスとして今後を考えていかなければならないということが参考になった。
- ・ 各大学の図書館での調査・分析方法についてとても分かりやすくご教示いただき、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 経験則に頼りエビデンスを確認する努力を怠りがちなので、稲葉様のお話はとても刺激になりました。
- ・ ポストコロナから大学図書館の利用も多少変化したつもりではありましたが、今回ご講演頂いた2校の取り組みでより、学習支援についてより意識するようになりました。
- ・ 現場感覚だけでなく、エビデンスも大変重要であることが、よくわかりました。知った責任という言葉に感動しました。
- ・ オンライン化に伴う学習環境の変化について、その利点と欠点をより具体的に理解することができてよかった。
- ・ 非常に具体的な事例を挙げていただき、大変参考になった。
- ・ 感覚的に納得できるデータと、意外に感じるデータがあり、興味深く拝聴しました。
- ・ 滞在時間、閲覧時間についてデータを取りたくても、なかなか取れるものではないと思っていたので、その手法を取り入れられるようでしたら参考にしてみたいと思いました。
- ・ 早稲田大学、千葉大学ともに、利用者の行動や生の声を積極的に収集しておられるその姿勢に感銘を受けました。
- ・ コロナ前後で、明らかに学生は学習を強いられるようになり、学習量が増加した。その際に、何を頼っているかということ、ネットなのではないかと思う。PCの横にあるのはスマホ。それでは実際にはどうなのか、そのことを把握したうえで今後の図書館運営に生かしたい。電子ブックの利用度合いが高ければ狭隘問題の解決にもつながる。また一方で、原典に当たるという重要なことを教えられるのは図書館なのではないか、という部分も一方では考えられる。考えるきっかけをいただいた。
- ・ 貸出数や入館者数からは分からない観察調査から見えてくる利用実態があること。メディア授業は学生のペースで受講しやすい反面、スケジュール管理が難しいという見解
- ・ 根拠（エビデンス）に基づいた企画立案の重要性、「数値」には説得力があること。「EYeL!」について知り得たこと。
- ・ エビデンスベースという考え方は他の分野であればもはやずっと以前から当たり前のことかもしれないので図書館に於いても当然しかるべきなのかもしれないのですが、これまで意識したことがなかったけれど今回お話を伺うことでその気づきを得たというのはとても大きかったです。感覚的に日ごろのサービスや業務で感じていることの裏付けをきちんと取る、確認できるという意味で、時に数字をきちんと把握することの重要性を改めて気づかされました。単純に入館者であるとか貸出数などは日常的にももちろん計測していますが、例えば利用者の滞在時間など、より利用者の利用実態を把握する観点からの数字の把握は、今後より重要というか当然のものとして考えていってもいいのかもしれないと感じました。
- ・ うっすら気づいていた、入館者数や貸出数で利用の実態が量れないということを実感しました。また、それ以外の利用実態の量り方は思ったよりアナログな方法でした。教員へ質問することの学生の心理的ハードルが随分高いことも想定外でしたので、学生に必要なサポートに繋げるための広報の重要さがわかりました。
- ・ 従来通りの図書館の統計だけでは見えてこないサービスの需要があるのではないかとことを気づかされました。当館の利用者が何を図書館サービスに求めているのかを把握してサービスにあたる必要があるなと思いました。
- ・ あらためて、多様で変化し続けるユーザーを相手にしている図書館の責任を感じた。

- ・ 「館内利用調査」の重要性を改めて感じました。専任職員は現場から離れているため机上論になりがちだが、利用者のニーズを把握するには様々な方向から調査することが必要だと思いました。また、オンライン学習支援の大切さも改めて考えさせられました。
- ・ アンケートには責任を持つこと、というのは重要な観点であると思った。
- ・ 図書館関係者の実証的な取り組みがなされていることがわかり、感銘を受けました。
- ・ デジタル化に着目がされていますが、稲葉様のご発表内でありましたとおり、図書館が元々果たしていた役割も見つめ直し、ベスト・ミックスを見つけていければ良いという考え方に共感いたしました。
- ・ カウンターでの体感だけではなく、アンケート、さらにはインタビューなども交えて、利用者のニーズを探っていくことが大切だと思いました。
- ・ 早稲田大学さんの、観察調査を行うことによってこれまでとは違う利用の状況を伺い知ることができ、貸出冊数や入館者数などの従来の統計ではひとつの側面しか見ていなかったのだということが興味深かった。千葉大学さんの、二週間日記をつけさせての調査は、図書館の調査としては斬新だった。質問にも他部署との連携の話がでていたが、この調査は図書館だけではなく教務としても関心のあるデータだと思う。
- ・ 専任職員の方が子会社へ出向されて現場を見ておられるという早稲田大学図書館さまの取り組み、また千葉大学さまも含め図書館をより良くしていくために取り組まれている調査とその結果論考すべき事柄を知り、刺激を受けました。大学子会社の図書館職員としてバック業務に従事しておりますが利用者ありきの図書館という側面を普段実感する機会はあまりありません。また子会社の場合、大学側の方針に従うことが基本ではありますが、利用者のために環境を整えるという点では同じスピリットを持って協働していきたいと改めて思います。
- ・ ポストコロナではあらゆる点で図書館員の意識を変える必要があるという点、エビデンスベースの姿勢を持つという点を踏まえ、改めて図書館の在り方を考えてみたいと思います。学生の生の意見を知る大事さを感じました。
- ・ 調査方法やエビデンスベースの考え方が非常に面白かった。職員数も最低限でアンケートや利用調査が通り一遍になっている本学では現状を把握することも難しいのですが本日の講演を伺ってそれでも利用学生のニーズに応えるために何らかの働きかけをしたいと感じました。
- ・ どちらの図書館も、コロナ禍において従来通りのサービスから利用者のニーズに合った学習支援をするための方法を探るため、まず実地調査を行っていることが印象深いと感じた。
- ・ 図書館での地道な調査にも、説得できるいろいろなファクターがあることがわかり良かった。
- ・ 実際に自館で同様の調査ができるかはともかく、図書館のパフォーマンスをアピールするために、いろいろな切り口があるということを教えられた。
- ・ 当該大学の状況、特に学生の要望等について改めて認識しました。
- ・ 直接観察による利用調査の有効性
- ・ 学科によって試験中の図書館の使い方が違うという点、本学の傾向（具体的な数値はきちりとしていませんが）を見てみると、なるほどと思いました。
- ・ うちの図書館でも、図書館の使い方が変わってきた学生をよく目にするようになりました。スマホで講義を見ながら、図書館の広いテーブルで、図書館の資料も使って勉強する姿です。今後このような姿が一般的になるのなら、もっと彼らが使いやすいようにスペースを有効的に利用できる方法はないかと考えられるようになりました
- ・ 自宅学習が続くことに基づく学生の苦悩
- ・ 利用者ファーストであること

- ・ インターネットと検索エンジンで、情報収集は済まされてしまっているようだ。
- ・ 観察調査により「利用実態」「ニーズ」を把握しようとする取り組みは素晴らしいと思いました。コロナ禍以降、滞在型図書館の利用傾向が強まっていること。
- ・ コロナ禍で学生が何を不便に感じていたか、その中で図書館に関係する事項はどんなものがあったのかを知ることができました。また、利用者が図書館に求めるものは、大学ごとに異なるという点に改めて気づくことが出来ました。
- ・ 図書館側の感覚や思惑だけでは利用者の役に立つ図書館運用はできないけれども、利用者の声すべてに対応すればいいかということでもなく（実際できませんし）、難しいなと思います。そんな中で、本日のセミナーでは、こちらが思っている以上に学生の実態を知れていないのだな…ということと、まずはそこを知ること（知ろうとすること）、知って考えることが重要なのだなと感じました。調査のデータを見ると、普段の現場感覚としっくりくる点・逆になぜそうなっているのか分からない点の両方が出てくるのが興味深いです。更に質的調査では、全く知らなかった学生の実態も見えてきて、大変貴重なデータを収集されているなと思いました。
- ・ ポストコロナの図書館サービスの判断のために、新しい生活様式における利用者ニーズを把握したいと考えていますが、エビデンスとして「利用者ニーズ」を捉えなおすことの重要性がわかりました。
- ・ 利用者ニーズの把握には、アンケートだけでなく、インタビューは実測調査が有効であり、その方法例を知ることが出来た。
- ・ 利用者の動向調査の方法など
- ・ データや情報は、組織の現状と課題を示すものであることを再確認しました。
- ・ 図書館員側の意識を変えることの重要性に気づいた。
- ・ 図書館が、バーチャルに資料提供だけやっていたらよいのではなく「場」として学生に好まれていることを、利用調査の結果として示していただけた。自分の職場でも館内の定期巡回による観測を実施しています（千葉大のALPSセミナーで「定点観測」について拝聴してから真似てみたので、もう7年になります）。利用している時間量の推定値を算出するところが非常に興味深かったです。
- ・ 図書館のサービスの提案や実施をする上で、エビデンスをベースに考えることが大切だということ。
- ・ 旧来の図書館像に基づくイメージのみでは利用者ニーズに即した学習支援が実現できないということ。
- ・ 利用者のニーズを把握するために決まった時間に巡回して統計データをとっていることは興味深かった。
- ・ 早稲田大学稲葉氏の館内利用観察調査について、本図書館も調査を行い、状況について分析・検証してみたいと思いました。千葉大学谷奈穂氏の調査後の対応について、調査で学生の実態を知ったという責任があるとのお話に身が引き締まる思いがしました。
- ・ 各図書館で利用のされ方が大きく違うこと
- ・ 調査方法のひとつに、直接観察によって館内利用を調査し、エビデンスデータをとっていることに興味深く感じた。・ 調査しただけではなく、学習支援をどのようにしていくか、学生の実態を知ったことに意味はあり、知った責任もある、という点に共感した。・ エビデンスデータの重要性を感じた。
- ・ 多忙に追われ利用実態について把握することが後回しになっていたが、講師のお二人のお話を聞いて、あらためて大切であることを認識しました。
- ・ 90%の新鮮さでしたが、特に印象に残っているのは千葉大学「利用者発話エリア」と学習支援の時間割とサーポーターが全員大学院生（サブリジェクトライブラリアン）がとてもよかったです。
- ・ 図書館がメディア授業について調査、分析をしていることに驚いた。教務課や学習支援センターと連動すると、よりよい支援が可能になると感じた。

- ・ 利用されてこそその資料、利用されてこそその学習設備・環境と心得ていましたが、あらためてその思いを強くしました。
- ・ 図書館の利用状況について数量で測定する方法があることを知りました
- ・ 図書館の利用状況は来館者数や貸出冊数で図りがちになるが、利用者の観察やインタビューで違う視点が浮かび上がることが、大変興味深かったです。数字で表すことの強さや責任について言われていたと思いますが、説得力があるゆえにその扱いにも慎重を期さなければならないとも感じました。
- ・ 大学や図書館として、アンケートや調査を行うことはあるが、惰性で行うのではなく、その後の運営に反映させていかなければならないことがよくわかりました。
- ・ 授業形式の変化により、その特性に合わせた環境が必要であることや調査によってわかる利用者の現状やニーズがあり、それらを認識し共有する（知る・伝える）ことの重要性を理解できた。
- ・ オンライン授業が増えた後、様々なシステムを使わないと授業、課題に対応出来ないとのことで、学生さんの苦勞を垣間見ることが出来ました。
- ・ 館内の巡回による学生動向の葉把握、エビデンスの重要性について参考になった。巡回による情報収集の手法などを参考に実施してみたい。
- ・ 利用者のニーズを把握し、次なるサービスの展開を検討する上で、専任職員も直接現場を観察することの重要性を明言されたのは、良い指摘だと思いました。統計の数字でみるべきポイント、直接現場で観察するべきポイントが整理されれば、業務委託スタッフ・専任職員とも、情報が共有でき、スキルアップにつながるのではないかと思います。また、オンライン講義がどのように行われ、受講した学生がどのような点で困難を感じているのか、それに対して図書館側がどのようなアクションを起こせば良いのか、深く検討する場を持たなかったことは、反省点だと気づきました。
- ・ 調査の活かし方を考えさせられました
- ・ シールによるPCの利用区別は見やすいと思いました。
- ・ エビデンスを難しく考えていたけれど、観察⇒数字にすることができる、その数字から新たな発見もあるし、その数字と館員の感覚も一致することもある、という、わかっていたようで、曖昧だったことをはっきりと示してもらえた。
- ・ 利用者サービスを考える上で客観的な評価ができる根拠の重要性を改めて感じました。特に館内利用調査の手段としての観察調査は、利用者や教員の手が不要なので、本学でもすぐに実践できる取り組みだと思いました。
- ・ 突然始まったメディア授業に学生がどう対応し何を考えたかを知る貴重な調査を千葉大学附属図書館さまおよび千葉大学アカデミック・リンク・センターさまが実施していたことを初めて知りました。「調査結果を何らかの形で教員に共有する」を進めていただけることをお待ちしております。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・ 利用者アンケートを通じての直近の改善実施事項、利用者への改善点や改善できないことのフィードバックの有無
- ・ 図書館司書や関連職員の認識が今後稲葉報告のように、本当に転換しうるのか。
- ・ 特にありません。わかりやすかったです。
- ・ 両講師の論文を事前読んでおくべきだったと思いました。
- ・ アンケート以外で、雑誌の利用状況調査方法をお伺いしたかったです。
- ・ 講師の方が実際図書館のどのような業務に関わっているのかがわかると、また視点が変わるのではないかと思います。

- ・ 特にありません。
- ・ 館内利用資料については、調査期間は返本用のブックトラックに戻すようにし、それらの図書を記録する方式（スキャナでの ID の読み込み）が考えられるのではないのでしょうか。
- ・ 教職学協働が求められる中で、特に教員の関わりがどのようなものかわかると、より精度の高いデータが取れるのではないか。
- ・ 館内利用調査などで、どこまで実態を把握できるか、どこまで確証を持てるデータが得られるのか、もう少し詳細を伺ってみたかった。
- ・ 谷様のお話の中で「オンライン選書ツアー」と出てきたのですが、よくわからず、これについて可能であればもう少し知りたいと思いました。「オンライン選書」だけではなく、ツアーなので、複数（一緒）での取り組みのように思われ、（バーチャルでツアーを実施したのか？）ご教示いただけますと助かります。
- ・ 学生が気軽に交流・疑問を解消できる環境・ツールを用意するために、何ができるか。
- ・ 特になし
- ・ とはいえ、図書館の目的が「利用率を高めたい」のか「利用によって学修効果があがるという前提をもって」のかがいまいちよくわからんなーという感じ。
- ・ Q&A コーナーでも質問が上がっていたが、早稲田大学での観察調査は目視でどうやって実施しているのか気になった。個人的な感覚としては、館内の利用者全員の外見を 3 時間後も覚えていられる自信はない。
- ・ 関連文献等で理解を深めたり、より具体的なヒントをいただこうと思います。
- ・ 貸出をされていない雑誌の利用頻度をどのように調査されたのか。
- ・ 早稲田大学稲葉様の発表されていた館内利用調査について、あとで「大学図書館研究」で確認させていただきます。
- ・ 特にありません
- ・ 特にありません。
- ・ 調査には人と時間の両方を要すると思うが、通常業務で手一杯でありながらも調査に時間を割けたのはどんな工夫や仕事のやりくりがあったのか
- ・ 谷さんもご講演の中で仰っていましたが、このようなアンケートなどに積極的に協力してくれる学生は、いわゆる”意識高い系”なので、コロナ禍でもそれなりに工夫をして対応できる学生だと思います。現場で問題になるのは、そういうことができない学生の場合が多いので、そういう学生の意見をどう拾い上げて、フィードバックしていくかが、今後の課題だと感じました。
- ・ 特にない。
- ・ 稲葉さんの発表で紹介された観察調査について、具体的な手法がイメージしにくかったのですが、論文に係れているとのことでしたので、後ほど確認させていただきます。
- ・ 具体的、調査方法について
- ・ 紹介いただいた文献に目を通したいと思います。
- ・ ILL 利用や訪問利用など、自館のみにとどまらないサービスについても調査があればお聞きしたい。
- ・ 特にありません。大変分かりやすくご説明いただきありがとうございました。
- ・ 特にありません。
- ・ オンライン化が進むなか、コミュニケーションやネットワーキングのための場の提供が重要であることがわかったが、教員も含め学内の各組織がどのように連携して学生の学修支援を総合的に行っていけるのか、具体的な事例をもっと知りたかった。
- ・ 学生が、学習の場でどこまで図書館資料を使っているのか、特に紙媒体の図書館資料をどこまで使っているのか、結局よくわかりませんでした。研究において、特に人文社会科学において図書館資料はまだ必須だろうとは思いますが、学習においてどこまで必要なのか、まだまだ判断が難しいように感じました。また、国会図書館の電子送信サービスの影響にも興味を持っています。
- ・ 聞いていた範囲では今のところありません。
- ・ コロナ前後で図書館におけるレファレンス内容は変わったのか？あるいは、図書館が期待されることが変わったのか気がなりました。また、電子ブックの存在は、授業と図書館の連携の中でその重要性を伸ばした

のかどうか気がなりました。

- ・ 1日の内に受講する授業でも、対面形式とオンライン形式が混在する場合、図書館の利用実態も変わってくるのではという考えが浮かびました。
- ・ 巡回による調査について、来館者が閲覧席で利用している資料の特定、滞在時間の測り方など、具体的な手法が知りたかった。
- ・ 論文には書いてあるのかもしれないが、やはりそれで今後どう対応し続けていくのかであろうか。
- ・ オンラインレファレンスの難しさを感じており、どうハードルを下げていくか、どう広報を行うかといった点でまだ疑問が少し残りました。
- ・ 観察調査についてもっと知りたいと思った。
- ・ 特になし。明解でわかりやすい講演でした。
- ・ 各大学で規模も運営形態も異なるため、画一的な正解はないものでありますが、学生支援については従来までのラーニングコモンズの範疇に収まらず、各大学において既存組織の型に捉われず、複数の専門部署との連携がより一層求められていくのではないかと感じました。
- ・ 利用者のニーズをどこまで汲むべきか、調査対照をなるべく広くとる必要があると感じました。協力（または調査）の際に、どの様に気を配られたかお伺いしたかったです。
- ・ よくわからなかったことではないが、それぞれ調査を踏まえてどのような学修支援を展開されたのかをもっと知りたかった。
- ・ 両氏の講演の根本にある利用学生の声を次のサービスにつなげる為の調査の必要性は強く感じましたが自分たちの学習環境を整えるためとはいえコロナ以降学生は、図書館以外でも頻りにアンケート調査に応じていると思います。学生は負担に感じていないだろうかという素朴な疑問です。
- ・ 調査を行った後の学習支援の具体例とそのフィードバックについてもっと詳しく聞きたいと感じた。
- ・ 特になし
- ・ 中小規模大学図書館への応用
- ・ 最初から参加できませんで、疑問に残った点としてあげられませんか。申し訳ございません。
- ・ お二人とも、もう少し具体例を出してほしかった
- ・ 特にありません
- ・ データベース、特に大学が契約している英文などの学術情報への自宅からのアクセスの現状と課題について。
- ・ データの取り方に少し疑問が残りました。観察調査の際、「図書館の資料」or「私物」、等の判断が観察者の感覚などに左右されるのではないかと思う。
- ・ 特にありません。
- ・ 稲葉氏の、館内利用調査（観察調査）に大変興味を持ち、大学図書館研究の関係する論文等を拝見させていただきましたが、具体的な調査や課題について直接伺いたいと思いました
- ・ 調査結果をどのようなサービス改善につなげているかの具体例。
- ・ 校務のため質疑応答の時間帯に離席してしまいました。利用者の直接観察とエビデンスの組み合わせという工夫された方法で行われたと思いますが、それらの評価軸をどのように設定したのか、伺いたかったです。
- ・ 「時間の調査」と計算について疑問でしたので、稲葉さまの2019年8月『大学図書館研究』112号掲載の論文を拝読いたしました。調査する人によって差異がでてしまうと思いますが、その「意識合わせ」のようなルールは、日ごろどのような業務に従事しているスタッフさんが作成されたのでしょうか。
- ・ 早稲田大学図書館における館内利用調査の各指標の定義。（後日、関連文献に記載されている論文にて確認いたします）
- ・ なし
- ・ 資料がダウンロードできなかったので、慣れていない者でも間違いなくダウンロードできるようにしていただけると助かります。
- ・ 目視で調査ということですが、調査する人によってばらつきがないのか、標準化するためになにか方策をとったのか説明があったのかもしれませんが、聞き逃したようです。

- ・ 稲葉様の講演について、数値化しづらい滞在内容等は、やはり司書の勤によるところはあるかな、と思います。概ね的を得ている数値になると推察しますが、これもキャリアのある司書を雇用し、ある程度の人員が確保できているからできること、図書館運営体制が貧弱な場合は容易ではないと感じます。工夫次第とは思っていますが。
 - ・ 数量調査の方法を具体的にお聞きしたかったです
 - ・ 利用者の利用状況を巡回により、サンプリングされていたと思いますが、個人的にはあまり観察されたくないの、その辺りは大丈夫だったのか少し疑問が残りました。観察での質的調査を行う上でプライバシー保護の観点からもなにか配慮をされていたのかそちらも気になりました。
 - ・ 把握できた利用者のニーズを実際に運用へ反映する際、検討の過程で困難な点もあるかと思いますが、どのように実現されてきたのでしょうか？（メリット・デメリットのバランスや業務の継続性等）
 - ・ 巡回による情報収集の方法について、説明ではよくわからなかったの、参考資料を基に実施してみたい。
 - ・ 実際に観察を数字にする具体的な方法。例えば図書館マップ上に、何時に何色の洋服の学生がいた ⇒3時間後も同じ学生がいた、という観察を記録するのか、これだとかなり大変になると思う。もう少し便利な方法があるのか、知りたかった。（オンラインということでカウンター業務をしながらの参加のため、聞き漏らしたかもしれず、質問はできず、発表者の論文をあたってみようと思いました。）
 - ・ 当方の都合で（ネットワークトラブル等）谷様の発表途中から内容を聴くことができなかったことをまずはお詫び申し上げます。他の方からすでに質問があったかもしれませんが・・・早稲田大学様の取り組みである館内利用調査の手法でいくつか疑問に感じましたが、参考文献をご提示いただいておりますので、アンケートの手法等も含め、文献を読んで参考にさせていただきたいと思います。
- 3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。**
- ・ 学修支援がオンラインでできれば24時間365日、場所を選ばず学生は学修できて、場所、時間から自由になれていいのではないかと考えております。
 - ・ 改善は迅速対応をつい優先させてしまうが、稲葉さんの言われる「エビデンス・ベース」の対応が必要だと感じた。
 - ・ エビデンスとしてのデータが何を意味しているのかといったデータを正しく読み取る力と、何を検証しようとしているのかといった課題設定力が必要だと考えています。
 - ・ 電子リソースの充実・提供やシステムの維持管理、相談に対応できる能力・人材が必要
 - ・ 特になし
 - ・ 本学図書館では、資格のサポート室なども同じ館内に設けて学習支援を行っております。（去年まではITサポートや学修センターも設置していましたが新校舎に移ってしまいました）
 - ・ 限られた数の専任職員と限られた労働時間の中で、あきらめず、できることから取り組んでいきたいと思っております。
 - ・ テーマに沿った文献、情報の探し方を提供している。が、実際に学生が活用しているかどうか、は不明。
 - ・ 学生と情報を結びつける、というところを考えなくては、と思いました。
 - ・ 学生個人個人のニーズにあわせた支援が重要となると思います。そのためにもいろいろな事例を見て、支援の仕方を学んでいきたいと思っております。
 - ・ KKD（経験・勘・度胸）に依存した属人的で均質的な教育支援から、データに基づいた多様で個別最適性を目指したサービスが提供されることが望ましいと考えています。（教学マネジメントの運用が学生のリニア式の成長を成果ととらえている傾向を危惧しています。）ユニバーサル化の過程で従来の階層とは異なるマーケットへのアプローチが求められる過程で、教育支援をアップデートできる人材が必要と感じています。

- ・ 学生のコミュニケーションのあり方が、支援していく中で大切になっていく。ピアサポートのような仕組みとして考える必要がある。
- ・ 大学における教育、学修支援に必要な資質としては、稲葉氏もおっしゃっていたように、常に役割を見つめなおす、新しいことがらを拒絶しない、「柔軟である」ことが一番重要と考えております。取り組み事例としては、他部署との連携の部分で、キャリアサポートセンター（就職課）と連携し、図書館が契約している企業研究ツール「日経テレコン」「東洋経済 DCL」の講習会を就活スケジュールに組み込んでいただき、オンラインセミナーとともに年間の予定として発信するといったことを行っています。また、図書館の学生サポーターが企画するグループワークイベントへ、センター職員がアドバイザーとして同席するなどの取り組みも行っています。
- ・ コロナ禍対応として取り組んだ学習支援も、感染状況により随時変化・更新が必要になります。その変化に対応できるよう、大学、教員、職員が連携し、とどまることなく新しい支援方法を検討していくことが大切だと考えます。
- ・ 学習支援は、学生の変化に応じて、こちらが行う対応も変えていく必要があると思います。マニュアル化して何年も繰り返すということができないことなので、頻繁に学生の状況を把握する・学生の声を聴くための調査を行うことが理想的だと感じました。
- ・ 図書館アプリ、展示、ブクログ、ランチセミナー、芥川賞を当てる投票、書評キャンパス展示等
- ・ 教員、他部署との連携は重要だと思っています。
- ・ 物理的な図書館は「場」の機能を求められていると感じている。それをサポートする業務が、これまでの図書館員としての仕事としてあまり重点がおかれていなかったように思う。
- ・ 様々な大学での取り組み等も参考にさせていただき、よりよい支援となるよう引き続き努力していきたいと思っています。
- ・ ありません。
- ・ 学生が教員に対して直接質問することが難しいと感じている点について、オンライン化以前からこの傾向はあったと思いますが、オンライン化が進むなかでさらに困難が増したように思います。また、オンライン授業では学生と教員との間の関係構築が難しい場合が多く、受講生同士の関係構築も困難になりがちであるため、それぞれの学生が授業に関する疑問を解消することができずにそのままになってしまうことが多いと思いますが、この点に関して大学組織としては学生や教員に対してどのような支援が可能か知りたいと思いました。
- ・ オンラインツールやネットワークについての知識とスキルが今後ますます必要だと日々痛感している。当館では主に新生を対象とした学習支援として、図書館で実施するオリエンテーションのほか、教員の依頼に応じて新生ゼミナール等の授業内で、文献検索や図書館利用方法の授業と館内ツアーを行っている。
- ・ あらためて「図書館職員の思い込みを捨てる」ということが重要であると感じました。
- ・ 特にありません。
- ・ 昔から言われていることですが、対象（学生）と、教員が求めるものをよく知る事だと思っています。
- ・ コロナをきっかけに大学における教育・研究の環境は日々どんどん変化していると感じるにもかかわらず、その変化に図書館がついて行ききれていないと感じます。その原因はやはり大学内では他部署との連携が（全くないわけではないですが）まだまだ十分でないことに起因しているように思います。使い古された言葉かもしれませんが、コミュニケーション力や意識的に連携していこうという姿勢は、より必要というか、あって当たり前であるべきになりつつあるのだらうと思っています。その上でいかに具体的教育・学修支援を行っていくか、ということになるのではないかと感じています。

- ・ 対面で、大学院生による学習支援の時間を設けていますが、少数の学生がリピートする傾向があります。利用の偏りは、相談に踏み出すハードルの高さの現れだと感じました。
- ・ 先を一度読んだだけではだめで、読み続け変化に対応し続ける体制、継承でしょうか。
- ・ 様々な部署との連携が不可欠になると考えます。特にシステム部門との連携については強化していく必要があると感じております。
- ・ 利用者感覚、組織人感覚、現場感覚、統計に基づいた判断の感覚等、これまで対極に位置づけられがちであったことの双方を俯瞰して観察・利用することのできるバランス感覚がより重要になってきているように感じます。
- ・ 図書館は、学修支援にもっと関与できると思っています。今回の講演は大変参考になりました。
- ・ 所属大学はすべての授業をオンラインで行っております。対面での授業を行わないことが前提であります。コロナ禍により各大学様が直面した多くの課題を初めから経験してまいりました。オンラインで可能な学習支援方法を常に模索していますが、逆に本日のご発表にありましたように、「セレンディピティ」の観点は大変重要であると改めて感じたところです。
- ・ 質疑応答でもございました通り、学修支援においては、教員（授業一課題）・他部署との連携を取る必要があると考えます。また本学では スタッフ間で、他大学の取り組みを調査し情報共有することで、事例や意識のアップデートをはかっています。
- ・ 千葉大学さんの発表でもお話がありましたが、オンラインでの授業といっても様々で、どんな授業が行われていてどんな課題が出されているかを把握していないと適切な支援ができないと感じた。
- ・ 授業に対応したサービスの重要さ、利用者目線での取り組み、柔軟な考え方
- ・ これからの学習支援には、当然語学力や検索についての知識、電子資料についての知識等が必要だと思えますが、本学の場合はまず図書館の機能を周知する努力が先決と感じました。
- ・ 特にありません。
- ・ 電子系コンテンツの充実に努めています。
- ・ 学習・教育支援も必要ですが、教員の研究成果を見ていると、研究倫理教育の必要性を感じます。
- ・ 本学は医療系のため、総合大学とはまた違う雰囲気があります。時間に縛られる学生が多く、国家試験合格が当たり前の校風があります。もっと学生が主体的に行動できる余裕があれば良いのですが、なかなか教職員も古い考え、やり方を変えられず、コロナ禍ですら対応力の低さが目立っていました。図書館ではデータベースガイダンスやレファレンスの他にも、普段から積極的に学内の学生に声かけ（簡単な挨拶などですが）をして、なるべく雰囲気良くしようとしています。図書館という場所が居心地がよく、集中して勉強できる環境であるということを知ってもらう、継続的に利用してもらえるように印象を良くすることからはじめています。
- ・ 特にありません
- ・ 必要と思う資質能力というよりは、気持ち理解から始まる感想を述べる国語教育でなく、データ／エビデンスから論理展開する学びが必要で、図書館での扱いが可能であろう。
- ・ 自身の仕事、業務に対して付加価値をつけていくことは大切だと思っています。
- ・ 図書館単独での教育・学修支援には限界があり（または片手落ちになる）、大学全体で取り組む必要があると思えます。教員や他部署と連携できる環境づくりが必要と考えます。
- ・ 初歩的な段階であるが、図書館、あるいは学生支援課、情報センターなど関連部署で協働して支援体制を整備し、どこで、いつ、だれから、どのような支援が受けられるかを学生に届くように発信していきたい

- ・ ただいま勉強中です。
- ・ 嬉しいことではありませんが、お金や組織を動かすためには、見える数字なり根拠を挙げなければならず、それを用意するためにばかばかしいほどの労力が求められます。(私の館の利用観測は、閲覧席の電源増設工事の申請のために有用でした。) そのような作業に熱意を継続できる資質・能力をなんと呼ぶべきなのでしょう。
- ・ 本学は学生アドバイザーが1限~5限シフトを組んで図書館に常駐し、PC貸出、操作補助、本の探し方など学習支援を図書館員と連携して行っています。
- ・ 特にありません。
- ・ わたしは教務課の職員ですが、教育・学修支援のために必要だと思う資質・能力は、自らが継続的に学び続ける習慣と聴く力、伝える力だと思います。
- ・ 名城大学(沖縄県名護市)で学生会館を新設した際見学したのですが(2017年)、各階にコンセプトがあり、学修支援、キャリア支援、学生の生活支援等学生にとって有用な、総合的支援を行っているのが印象的でした。
- ・ 自分自身が高校から大学に入学した際、今までの学びとの違いに戸惑いがありました。ゼミでどの担当教諭当たるかでも、学習に対する取り組みに違いがあったように感じます。今の高等学校の状況がわかりませんが、概ね今も変わらないのではないかと思います。今回のお話の中でも、オンラインで利用できる資料を用意してもそれを利用する側への広報が必要となるのと同様の話かと思います。雑感で申し訳ありません。
- ・ 対面で実施してきたセミナー等もオンデマンド形式に変更するなど、今後オンラインによる受講形式と併用となった場合に、その形態に適したコンテンツの作成等、内容、構成、技術的な面も必要と思いました。
- ・ 特にありません。
- ・ 教育・学習支援のために必要と思う資質・能力としては、「改善しよう」とか「(何かを)より良くしよう」と考えられるかどうかが大変だと思います。
- ・ 立場や部署を超えた連携が重要で、そのためにはコーディネート的役割を果たす部署や人が必要だと考えております。(あくまで私見ですが・・・例えば本学では学生アンケートを毎年実施していますが、図書館の項目ですら、図書館部署で考えたアンケート内容ではありません。他にも他部署がどんなサービスをしていて、何が足りていないのかが見えていないので、ぶつ切りの支援をしていると感じています。私自身、教職員に対して、忙しいだろうからという遠慮から図書館サービスをきちんと伝えられていないと反省しています。)

4. オンラインセミナーを受けてみて、ご不便に感じたこと、改善してほしいことがありましたら、ご自由に記入してください。

- ・ 資料は事前に開示いただけると読み込んだうえで質問できるのでありがたい
- ・ 最後に報告のお二人に御礼の拍手などができるとよいかと思います(現実には難しいのは承知しておりますが)。
- ・ 特にありません。ネットワークトラブルもなく進行もスムーズだったと思います。
- ・ 快適でした。ありがとうございました。
- ・ 事務連絡を手際よく行ってください。最初の事務連絡は聞き取れない部分がありました。時間の関係もあると思いますが、質疑応答の時間がもう少しあればよいと感じました。
- ・ 特になし。
- ・ 特になし
- ・ 事前に資料のURLをお知らせいただけましたら幸いです。

- ・ 特になし
- ・ オンデマンドで残してもらえたらうれしいです。
- ・ 特にありません。有効に時間を使っただけで感謝しております。トータルでこの時間ですと、参加しやすく助かります。
- ・ 事前に資料がわかっていると印刷できるのに。と思います。かなり早い時間からアクセスできているので、そのときに案内があると、嬉しいです、
- ・ ありません。
- ・ 特にございません。
- ・ 特にありません
- ・ 特にありません。
- ・ 今回のセミナーでは不便に感じることはひとつもありませんでした。
- ・ 対面だと、講義後に一緒に聞いていた人と議論したり、こっそり講師に質問をしに行ったりということができるのですが、オンラインだとそういうことがなかなかできないのが残念です。（このセミナーに限ったことではなく、一般論です。）
- ・ 報告でもあったように、質問タイムはあっても、オンラインだと講師と受講者とのコミュニケーションは難しく感じる。
- ・ 特にありません。オンラインセミナーは参加しやすく、助かっております。
- ・ オンラインセミナーの場合、可能であれば開始前にPPT資料等をダウンロードできるようにしていただければ受講しやすいと感じます。
- ・ 特にありません。
- ・ 特になし
- ・ ありません
- ・ 特にありません。大変分かりやすくご説明いただきありがとうございました。
- ・ もう少し質問時間が長いと良いかと思います。
- ・ スムーズな進行で、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 特になし。
- ・ 配布資料のリンクを、講義直前ではなくもう少し余裕をもって送っていただけるとありがたい。（印刷してメモをとり、後に部内で供覧している）
- ・ 聞き逃しているかもしれませんが、業務で席を外して聞けなかった部分を確認できるよう、録画の公開とかあるのでしょうか。
- ・ 本日のご発表について、紹介いただいた報告を読んで理解を深めようと思います。
- ・ 最初のところで、音声が入り切れになってしまったのは、受けて側の問題かもしれないのですが、残念でした。再配信の要望もあるのでは？と思いました。
- ・ 発言者によって音量にバラつきがあり、スピーカーの音量調整に手間がかかる。主催者側である程度、音量をそろえて調整できないか。
- ・ 現在の方式で非常に利便性を感じており感謝しています。
- ・ 特にございません。
- ・ 特になし。
- ・ 特にございません。
- ・ 資料を事前にいただくと、質問等を準備しやすかったです。

- ・ 今回は特にそのようなことはございませんでした。
- ・ 特にありません。
- ・ 特になし
- ・ 質問に対するフォローがほしい。
- ・ 毎回興味深いテーマで感謝しております。
- ・ 時間の長さもちょうど良かったです。
- ・ できれば、見逃し配信のように、動画を公開していただけますと有り難いです。他のスタッフにも見せてあげることができますし、毎回都合よく時間を作るということが難しいので、あとで確認できると有り難いです。
- ・ 音声が聴きづらい場面がありました
- ・ 音声が聞き取りにくい場面がありました。
- ・ 質問や Q&A の内容が参加者から見えなかったこと。
- ・ 特に不便を感じることはありません。
- ・ 可能であれば、事前に発表資料のリンクを共有してもらえるとありがたいです。”
- ・ イヤホンで視聴しましたが、ブレス音が気になりました。可能であれば、集音マイクを改善して頂けると幸いです。
- ・ 参加しやすく大変良いと思います。業務の関係で途中退席しなければならなかったのが残念です。後日、再視聴できるとありがたいと思います。
- ・ 特にありません。
- ・ 特にありません。
- ・ 資料ダウンロード用 URL の公開が開始直前だったため、印刷する時間がほとんどなく困りました。資料がある場合、可能であれば、もう少し早めに情報を教えていただけると助かります。
- ・ なし
- ・ 資料がダウンロードできなかったのも、慣れていない者でも間違いなくダウンロードできるようにしていただけると助かります。
- ・ 特にありません。
- ・ 改善ではありませんが利用者の英語力向上できるように、来館者が増えることのコツやテクニック、教員との連携の実例があると助かります。例えば多読を QR コードを利用者が気楽に閲覧できる方法や取り組みなどがあれば参考にしたい。
- ・ 特にありません。いつもありがとうございます。
- ・ 実際のセミナーは問題なかったと思います。希望としては先にレジュメをいただけていればありがたいかったです。
- ・ 特にありません。
- ・ 再視聴が出来ると助かります
- ・ スライド資料をいただくと、そこに書き込んで受講でき、事後も確認しやすいので、スライド資料をいただくといいな、と思いました。千葉大学の紹介されたオンライン支援 Portal はチャットでリンクを教えていただけたので、とても良かったですし、そのサイトは、より学生が利用しようと思う案内だと思い、今後参考にさせてもらいたいと思いました。
- ・ 感謝しかありません。

5. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・ 他の会議のため中途退室する御無礼をお許してください
- ・ ありがとうございます。
- ・ 大変参考になりました。本学で取っている利用者データの活用を考えたいと思います。
- ・ ウェビナーなので仕方ないですが、参加者とのディスカッションがあつたら面白そうだったと思いました。
- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございます。
- ・ 大変参考になりました。ありがとうございます。
- ・ 最初の演者はやや早口でしたが、お二人ともわかりやすい発表でした。
- ・ 2022年度に入って、対面授業が一層増えている中で、コロナ禍の2年間の取組を総括するのに良いタイミングだっただけに、非常に時宜を得たセミナーだったと思います。
- ・ 大変参考になりました。ありがとうございます。
- ・ 時宜にかなった興味深いトピックスを気軽に視聴でき、良かったです。
- ・ オンライン授業・環境に対する学生の状況や、調査した結果はアウトプットすることが重要、ほか大変参考になりました。
- ・ とても参考になりました。どうもありがとうございました。
- ・ 今後の利用活動にいかせていけたらなと思います。
- ・ お忙しいさなか、貴重なお話ありがとうございました。
- ・ 毎回興味深いテーマでセミナーが開催されているが、時間が合わないなど今まで受講する機会がなかった。Zoomで移動を伴わずに参加できるのは負担が小さくてありがたい。
- ・ 大変興味深い内容でしたが、他の業務で全部視聴できなかつたことが残念でした。
- ・ 大変参考になりました。ありがとうございます。
- ・ とても参考になりました。7月の開催予定のセミナーも学内で共有し参加したく存じます。ありがとうございました。
- ・ 2校のご報告から、学生の学びの形態が変化していることを踏まえ、図書館の学修支援の内容を見直していくことの必要性について示唆をいただきました。誠にありがとうございました。
- ・ 取るに足らない（と自分では思う）ちょっとした疑問や気づきを拾い上げ、同僚に話し、対策をとるまでの心と時間の余裕と、利用者への責任感の大切さを思い出しました。ありがとうございました。
- ・ お話を聞いて良かった。
- ・ コロナ禍を経て、学生の学修の在り方や大学の設備、図書館の利用の仕方などが大幅に変化したと実感しています。その変化の正体を見極める必要があり、それには今回紹介いただいたような「調査」が必要であると、改めて感じました。図書館が大学の中で役に立つものであり続けるためには、利用者のニーズを正しく把握し、それに応えていくことが必須なことと、よく理解することができました。本日はありがとうございました。
- ・ 千葉大学谷様による講演の最後、調査して学生の現状を知ったことに意味はある、そして知った責任もある、というお話が、非常に心に残っております。利用動向を把握するため、アンケート等をとる機会が多いのですが、結果のフィードバックまでたどり着かないことが儘あります。今後の課題です。

- ・ 各館が実際に目の前にいる学生を対象にして調査をすることが最も有効だとは思いますが、なかなか調査に踏み切れない現状がある中で、他館での調査事例を聞くことができたのは、とても有益でした。ありがとうございました。
- ・ 大変貴重な情報をいただきました。ありがとうございます。
- ・ 調査から得られるものの大きさを感じました。数値化されることで明確になったり、新しい視点が持てたり、現場感覚が合っているということが自信になったり。結果を活かすことは重要だが、大きな変化が必ずしも必要ではない、できることから少しずつ進める、ということでもよいのだと改めて感じました。本日はありがとうございました。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 各大学での取り組みについてお伺いでき、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 本日は大変お忙しいなか、貴重な講演の機会を設けて頂きありがとうございます。テーマも多くの大学図書館が興味をもつ内容でしたので非常に勉強になりました。
- ・ 谷様の発表は、我々図書館員だけでなく、本学の教員にとっても大変参考になるのではないかと感じました。知った責任として、図書委員会などで受講報告しようと思います。今日はありがとうございました。
- ・ 大変興味深い内容で参考になりました。どうもありがとうございました。
- ・ 講義時間は丁度良い長さだったが、質疑応答の時間が少し短かった。時間切れになった方の質問にも興味があったので、今後は後日回答するなど対応していただきたい。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 貴重な研修の機会をいただき、ありがとうございました。
- ・ 本日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。実務に取り入れることができそうな知見を得る貴重な機会となりました。
- ・ ポストコロナにおいて、従来の図書館サービスを見直す良い機会となった。
- ・ 発表内容から、大学は違えど、おそらくどの大学でも学生さんたちが感じているであろう問題点を改めて実際の声としてあるのだということが実感できました。予想とは大きく外れてはいませんでしたが、ではその問題点にいかに関心のある形で図書館がフォローしていくことができるかが、今後の図書館の存在意義を左右していくことになるのではないかと感じました。
- ・ 大変興味深いお話でした。特に図書館の調査が面白かったです。
- ・ 貴重なセミナーを受講できてありがとうございました。
- ・ 大変ためになるお話をありがとうございました。今後の業務の参考にさせていただきたいと存じます。
- ・ 本日のQ&A集のようなものがございましたら嬉しいです。
- ・ エビデンス・ベースとはいっても、判断・理解の一つの根拠となるエビデンスを得ることと、物事を結論付けるほどのエビデンスを得ることには、大きな差があることを感じた。一つの根拠を得ても、それをより深く理解して現実に働きかけるには、さらに評価が必要ということでもある。
- ・ 上記のとおりです。
- ・ 図書館員は固定観念を捨てるべき、図書館ごとに対応は異なるはず、というご発言は、大変示唆に富んだものでした。
- ・ 大変貴重な講演を今回も拝聴させていただき、ありがとうございました。コロナ禍で困難な局面があり、急激な変化が求められるなかで、他大学様のお取組みの工夫を知り、大きな気付きを得られております。次回以降の開催も大変楽しみにしております。
- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございました。

- ・ スライドの内容等、とても受講しやすかったです。
- ・ 大学の規模に関係なく実践できる事例で大変勉強になりました。今後も先進的な取り組みについての聴講の機会をご提供いただけましたら幸いです。
- ・ いずれも大変有難い、耳の痛い内容の講演をありがとうございました。滞在時間、資料閲覧などから利用目的を推察し、学生の動向をつかむ。データを読み解き分析する。そこから図書館の支援やサービスの方向性を考え見えてくるニーズをつかみ実行する。根本的なことですができることを一つづつでも取り組んでいければと改めて考えました。
- ・ コロナ禍における大学の講義などのあり方が変わっていくなか、大学図書館の学習支援の方法について他大学の事例を聞けるいい機会でした。
- ・ たいへん参考になる内容でした。ひきつづきの開催を期待しています。
- ・ このコロナ禍で様々な調査というのは大変だったと思います。数字で分かり易く示していただけだったので、なるほどと頷きながら聞くことができました。お忙しい中、ありがとうございました。
- ・ 参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 取り組み事例や研究を何らかの形で発表できる場はとても大切だと改めて思いました。図書館の中だけで完結するのではなく、他部署や教員と一緒に教育を考えていくために自分がどのように動いていけるか・・・宿題をもらった気がします。
- ・ 貴重な講演をお聞かせいただきましてありがとうございました。講師の方々、運営の皆様にお礼申し上げます。
- ・ 特にありません。企画運営にあたられたみなさまに感謝申し上げます。
- ・ お二方とも、非常にわかりやすい資料とご講演、ありがとうございました。オンラインでできること、オンラインでなければできないこと、実際の「場」が必要なこと、いろいろありますが、利用者が選択できて、どちらも同様の高い満足度を得られると良いですね。図書館内で「発話」できる設備として、ある程度の防音機能付きブースを検討しようと思っています。
- ・ 長時間滞在して学習する学生が増えているが、従来統計では見えてこず、統計上では、入館者や貸出冊数が減っている状態です。この度の発表を伺い、利用者の利用実態を調査し、エビデンスとして検討するということはこれから図書館にとって必要なことだと思いました。本学でも取り入れていきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・ 学習支援にかかわる事例をもっと教えていただきたい。
- ・ 早稲田大学で行っている調査の項目などより詳細をしりたい（参考文献をまだ見れていないのでその中に含まれている？）と思いました。
- ・ 今年度より図書館に異動になり、まだまだ不勉強なところはありますが、他館の情報も共有し、学生のための図書館づくりをしていきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。
- ・ 利用実態調査をしたほうがよいのはわかっているのですが、モチベーションの維持やある程度覚悟が必要なので講師の方々の取り組む姿勢が素晴らしいと思いました。参考になる点はぜひ取り入れていきたいと思えます。
- ・ 客観的な状況だけで利用者のニーズを探ることは難しいと感じました。やり方は色々あるとは思いますが、利用者に少し踏みこまなければ、実際の要望は見えないと実感しました。コロナ以前にいた職場でアンケートを毎年来館者に配っていましたが、惰性で行われているように感じていました。やはり目的をもって行わなければただの作業となるのだと思います。今、図書館には利用者が戻ってきて活発に利用されていると感じています。閲覧席でのPCの作業をする姿も見られる中、一方コロナ以前と変わらないやり方

